



(左)藤木工務店 伊澤支店長 (中央)倉敷中央病院 山形院長



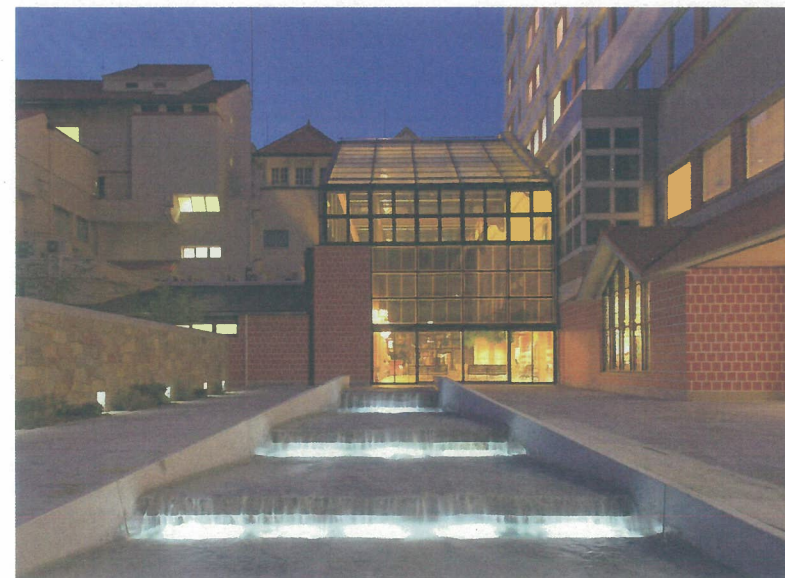
倉敷中央病院

一般建築物部門 最優秀賞 倉敷中央病院

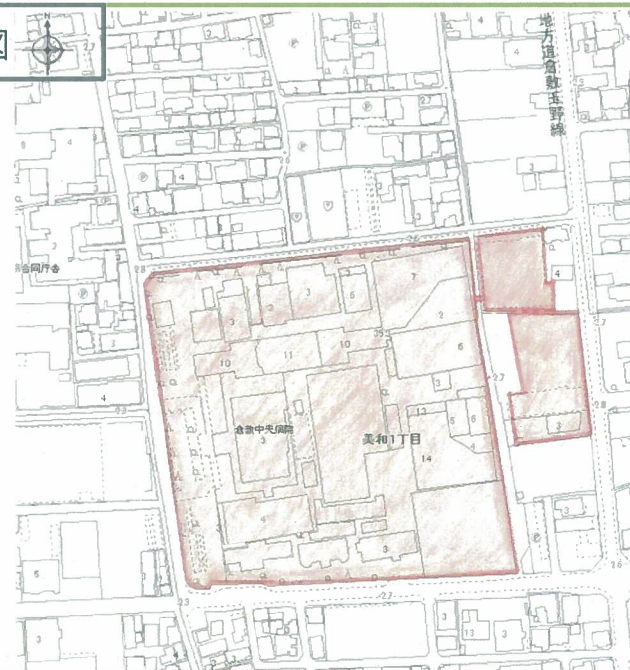
応募理由

スペイン風邪の流行で医師に罹れず亡くなる従業員や家族と市民を目の当たりにした大原孫三郎は、1923年倉敷中央病院を開院した(1927年に財団法人倉敷中央病院と改組)。その設計方針は「病院臭くない明朗な病院」。開院日の新聞に「病院の藝術化 別荘かホテルの如く 病院に在るの感なし」と報じられた。

50周年頃から始まった「面目一新」を期した増改築、そして2000年から始まった、21世紀に適応するための増改築と、新築に見劣りしないシームレス改修は敷地内全域に及び、2012年の3棟、2013年の1棟他耐震改修で建物全体の完成を見た。創立当初の方針を引き継ぎ、赤い屋根・病棟温室の再現のほか、屋上および周辺の緑化と共に、患者アメニティの向上と常に最新の医療と設備で市民に貢献してきた。その成果により、2011年に病院として初めてファシリティマネジメント大賞 最優秀賞を受賞、'16年3月には患者の安全や医療の質の向上が世界水準で組織的かつ継続的に取り組まれている病院として、中四国地方で初めて国際的な医療機能評価(Joint Commission International)の認定を取得した。



付近見取図



配置図



有限会社 UR設計 倉敷中央病院
ユニー・アール 配置図